

# いわき支部だより

発行日:平成25年9月19日(木) 平成25年度 第1号

発行責任者:いわき支部長 柴田昭浩

## 1.支部長挨拶



柴田昭浩支部長

平成25年度いわき支部総会並びに第26回学会は、あの震災の影響で中止になった平成23年度と同じ内容で開催されました。「災害時に臨床検査技師は何ができますか?」をテーマに、レクチャーでは特に災害時に威力を発揮するPOCTについて、その後の特別講演は、何時もパワフルな桑原紀之先生を講師にお招きして「災害医療支援のあり方と問題点」について熱気溢れるご講演をいただきました。あの震災から2年が経過しました。二度と経験したくない出来事でしたが、そこから学ばされた事も数多くあり、各施設ではマニュアルがすぐわずに改訂を行った事も多いと思います。今回の教訓を踏まえ、災害に関する研修等はこれで終わりではなく、会員の為にも警鐘を鳴らすべく継続して実施したいと考えております。

## 2.平成25年度いわき支部総会・第26回学会開催される



大花 県会長

平成25年度いわき支部総会・学会が4月6日(土)、いわき市総合保健福祉センターにおいて総数150名(委任状82名)の参加者を得て開催されました。はじめに、支部長の挨拶があり、つづいて県技師会大花会長の来賓祝辞、そして定期総会へと移りました。総会では報告、議案および新役員はすべて承認されました。



総会風景



西澤 寛先生

レクチャー講演

- ①「緊急・災害時におけるPOCT検査の有効性」～東日本震災を踏まえて～
- ②東邦薬品が取り組むPOCT市場展開性について



畠山 学先生

ご両名から、診察室やベットサイドで活用されているPOCT機器は、検査結果をその場で得る事で、患者さんのQOLの向上に大いに貢献した事、また、震災時の検査薬商品の物流についても、物流機能を果たし、最短の商品供給が可能となったとの事でした。私達もPOCT機器について、真剣に考える機会になったと思います。





桑原 紀之先生

桑原紀之先生の講演では、自衛隊の災害対処・災害医療・災害拠点病院の現状など、実際に災害医療に携わった経験を交え今回の東日本大震災について私たちの知り得なかったたくさんの情報を、余す所なくご講演いただきました。

また、会員も震災を経験したからこそ、震災前とは、全く違う視点で講演会を聞く事が出来たのではないのでしょうか？

今回の特別講演は、心に残る講演の1つになったと思います。最後に、会員にも「さあどうする？」と今後の課題を提起して話を閉じました。

さあ、どうする？



### 3. 役員紹介

|       |       |               |
|-------|-------|---------------|
| 支部参与  | 山崎美一  | 自宅            |
| 支部長   | 柴田昭浩  | かしま病院         |
| 副支部長  | 平山善雄  | 微研東北中央研究所     |
| 事務局長  | 森 菊夫  | 磐城共立病院        |
| 副事務局長 | 蛭田留里子 | 磐城共立病院        |
| 学術部長  | 塚本 厚  | 松村総合病院        |
| 副学術部長 | 吉田明身  | 松村総合病院        |
| 会計部長  | 菱川恭子  | かしま病院         |
| 幹事    | 木田譲仁  | 保健衛生協会いわきセンター |
| 幹事    | 鈴木きよ子 | 微研東北中央研究所     |
| 幹事    | 下山田浩美 | 呉羽総合病院        |
| 幹事    | 山口みどり | 福島労災病院        |
| 幹事    | 松本英明  | 磐城共立病院        |
| 幹事    | 荒明弘光  | 保健衛生協会いわきセンター |
| 幹事    | 原田弘美  | いわき市保健所       |
| 幹事    | 馬籠英之  | 小名浜生協病院       |
| 会計監査  | 河村幸江  | 呉羽総合病院        |
| 会計監査  | 田中秀子  | 福島労災病院        |



新役員の皆さん

#### いわき支部学術部から9月のご案内

- 1) 病理・細胞診  
症例検討会  
講演会「スライドガラスの基礎知識」  
9月11日(水) 18:00～ 労災病院
- 2) 臨床化学・情報処理  
「脂質分析における問題点と今後の展望」  
9月27日(金)18:00～  
(株)江東微生物研究所



# 第1回教養講座 「薔薇の講習会」



講師：帯施晃氏



講師：吉田庸子先生

「薔薇の講習会」が、6月8日（土）平赤井（帯施邸）にて帯施晃氏と吉田庸子先生を講師としてお迎えして開催されました。

コースは、①ばらリキュールづくり②プリザーブドフラワー③バラ風呂入浴法の3種類です。

プリザーブドフラワーでは、花びらの間にコットンを



詰めて花を開花させたり、電気コテを使い額を付けたり、全てが初挑戦のため先生への質問が殺到していました。苦勞の甲斐があり、いつまでも美しい生花のような柔らかな感触、発色を持ち、長期間咲き続ける枯れないお花が完成しました。お部屋の素敵なインテリアの1つになりました。また、もっと豪華な作品を作りたい・・・の声もありました。

講習の合間のティータイムでは、ケーキを食べコーヒーを飲みながら、庭一面に咲き誇る薔薇を眺めて、穏やかな時間を過ごすことができました。



ばらに包まれた帯施邸



ばらリキュール作り



お洒落な容器からリキュールを注ぐグラスは、  
どんなグラスかな？



リキュールを熟成させると年代物のリキュールの完成！何年物かな？  
2年・3年・・・？  
高級感漂うリキュールの完成品です（右の写真）



高級感が漂う  
薔薇リキュール



「プリザーブドフラワー＝枯れない」と言う事は知っていたのですが、特殊な薬剤を使って花に色を付けられる事、湿度によって花びらが柔らかくなってしまいう事、コットンや針金を使用した花の処理の方法を教わり、とても新鮮で楽しく受講できました。センスがあるかどうかは???ですが、先生のお陰で美しくアレンジできました。水やりの必要もなくお手入れも楽で今でも綺麗に咲いています。

磐城立病院:松本 朋子



「参加者の可愛い作品」



吉田先生の「4作品」



参加者の皆さん（総数27名）

《豆知識》

「プリザーブドフラワー」とは、保存すると言う意味です。発祥は、1980年代のイタリア・アメリカなどと言われています。その当時は、葉や小花のみでした。1991年バラのプリザーブドフラワーがパリで誕生してから、この花が世界に広がり始めました。

本号およびバックナンバーは、福島県臨床衛生検査技師会ホームページいわき支部からご覧いただけます。

<http://www.fukushima-amt.or.jp/>

